編集後記

2011年は国内外で、多くの衝撃的な出来事がありました。日本で３月に起きた東日本大震災は、通常ならそれだけでこの１年間を覆い尽くすほどのニュースかとも思われましたが、日本にも大きな影響を与える国際ニュースが、その大災害ですらワンオブゼムの位置づけに押しとどめてしまいそうなほど、次から次へと飛び込んできた１年でした。

欧州金融危機の深刻化、経済的にもスーパーパワーだったはずのアメリカの国債の初の格下げ、「アラブの春」の騒乱におけるチュニジア、エジプト、リビアなどの独裁体制崩壊、ウサーマ・ビン・ラーディン容疑者の殺害、稀代のイノヴェータ、スティーブ・ジョブズ氏の死去、日本企業にも甚大な被害を与えたタイの大洪水、そして年の瀬には北朝鮮の金正日の死去と、大きな力を持っていたはずのものが崩れ落ちていく出来事が多かったと思います。あたかも、街を破壊していった日本の大津波の凄惨な光景が、世界中に押し寄せる大波乱の前触れででもあったかのようです。

どの出来事が最も日本の行く末に影響を与えることになるのか、あるいはそれぞれの出来事が世界の将来にとってどういう意味合いをもつことになるのか、それは数十年後に振り返ってみてようやく分かることなのでしょう。

世界で起きる大事件と直接的な関連は薄いとしても、本学で教鞭をとる各教員が行っている様々な研究は、それぞれのやり方でこの社会の課題と取り組んでいるものであります。今年度も、私たちの研究成果の発表の場である「星稜論苑」の第40号を、多くの方のご協力を得て刊行することができました。ささやかであれ貴重な研究の努力の集成がここに仕上がったことを、誇りに思い喜びあいたいと思います。

辻　　建一